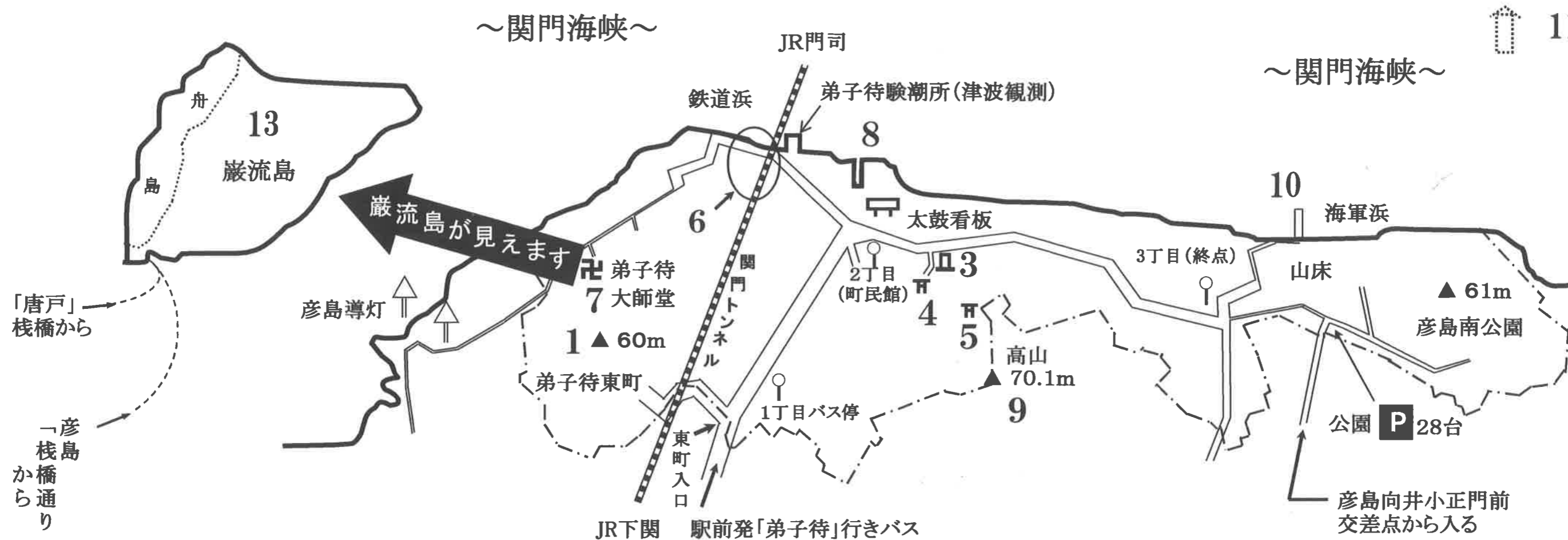


いらつしやい！ ようこそ弟子待へ！



弟子待町のいわれ

【いわれ 1】
 テシマ
 平安時代の天長7年(830年)、この町に勅旨田が置かれました

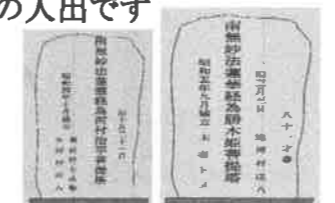
【いわれ 2】
 慶長17年(1612年)4月13日、佐々木小次郎(巖流)は宮本武蔵と舟島で真剣で勝負をしました(当時の舟島は豊前小倉藩領です)。小次郎の弟子20人が3隻の舟で「先生にもしものことがあったら応援しよう」と駆けつけた時のことです。これに気付いた小次郎は、「勝負は時の運である！お前達の応援でわしが勝てば小次郎の名がすたる！すぐさま引き返せ！」と叫びました。その声にびっくりした弟子達は、進むことも帰ることもできず近くの岸に舟を着けて勝負のつくのを待っていました。こうしたことから土地の人たちは弟子達が待ったところを「弟子待」と呼ぶようになりました

1 東町ビューポイント



東町頂上草原から、下関・門司の兩岸、巖流島、火の山、関門橋など、関門海峡全域360°が見渡せる見晴らしのよい絶景ポイントです。海峡花火大会葉には多くの人出です

3 姫塚(菩提塔)



口碑「平家のお姫様が倒れていた」と知る里人たちはお花を手向け大切にしていました。塚に姫の名はありませんが菩提塔を建立した河村家墓所には自然石の「勝木姫」菩提塔があります。勝木氏は加担した平家が敗れ没落したと云われています

4 弟子待 龍宮神社



明治29年(1896年)創建。彦島十二苗祖家の名家、弟子待登根家所有の神社で「家内安全、諸災消除」が願文です。地元では「龍宮さん」の愛称で親しまれ秋季には弟子待平家太鼓保存会が太鼓で奉納します

5 弟子待 金比羅宮



家業の倉庫業での出入り船舶の、海上安全祈願目的で弟子待河村家が建てた金比羅さんです。建主河村徳右衛門氏は彦島村助役を務め、船舶への給水槽の設置などもしています。現在狛犬などは残っていますが鳥居は落ち、参拝はできません